

学校法人 甲子園学院
甲子園大学中期計画
改訂版

2020-2024

2022年12月

甲子園大学中期計画 改訂版

目次

甲子園大学 中期計画	…P. 1
建学の精神	…P. 1
1. 教育の質の向上	…P. 2
2. 教育組織のあり方	…P. 4
3. 学生	…P. 5
4. 教職員	…P. 8
5. 地域連携・卒業生	…P. 9
甲子園大学の沿革	…P. 10

甲子園大学 中期計画

甲子園大学は、2020年度から始まる5年間で大学が飛躍する期間と位置付け、「甲子園大学中期計画（2020年度－2024年度）」を策定した。

その後の社会情勢の変動等を踏まえて、2022年に中期計画の見直しを行い、中期計画改訂版を策定した。

「教育の質の向上」、「教育組織の在り方」及び「学生のために」を重視して、大項目の立て方に工夫するとともに、改訂の時点において重要と思われる事項を詳しく記述するように心がけた。

甲子園大学の総力を挙げて中期計画の実現を目指す。

建学の精神

甲子園学院の建学の精神は、甲子園大学の建学の精神である。

甲子園学院 久米長八校祖は、建学の精神として「黽勉努力・和衷協同・至誠一貫」の校訓三綱領を定めた。

「黽勉努力」

「黽勉努力」の「黽勉」は、自らの心に従って自発的に勉め励む、自主創造の意味を持っている。また、一人ひとりが自らの人格陶冶に勉めるという意味も含まれている。

「和衷協同」

「和衷協同」は、和やかに心をこめて力を合わせ、共に行動し、事に当たることをいい、自分だけでなく人と人との関係における心の持ち方を示す。

「至誠一貫」

「至誠一貫」は、誠をもって人に接し、物事に対処して、一筋に真心を貫き通すことをいう。真心は天に通じ、よい結果に至るという信念の下に、誠実な人間を育てることに努めている。

1. 教育の質の向上

教育の質の向上を図るため、内部質保証のための体制の整備、自己点検評価の実施、IR活動、情報公表など内部質保証への取組を不断に行いながら、教育の質の向上に取り組んでいる。

(1) 3つの方針に基づいた教育の質の向上

建学の精神に立って、3つのポリシー（卒業認定・学位授与の方針 DP、教育課程編成・実施の方針 CP、入学者受入れの方針 AP）に基づく教育を実践し、教育の質の一層の向上を目指します。どのような学生を受け入れ（AP）、どのように教育を行い（CP）、どのような人材として社会に送り出す（DP）のかを明確に示し、教職員の共通理解の下に日常的に実践し、ポリシー間の連携を図りながら PDCA サイクルを確実に回していく。

- ・教育課程の体系化・構造化を行い、カリキュラムナンバリング、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーを学生に示すことを目指す。
- ・成績評価基準をシラバスに明示するようにする。
- ・学生の授業評価を授業科目の改善等に活かす。
- ・GPAの活用を検討する。
- ・地域連携科目を実施する。
- ・専門職連携科目を実施する。

(2) 基礎的学力の向上・グローバルな視野の拡大

論理的な考え方や、読解力や表現力、コミュニケーション能力やチームワークなどの基礎的学力を向上させ、学生が教育課程を十分に学ぶことができるようにする。

- ・総合教養科目をさらに実践的なものへと見直す。
- ・人格形成教育を実施して、社会に通用する人材を育てる。
- ・地域活動など実践的活動により、主体的な学びの姿勢を身に付けさせる。
- ・事前学習、事後学習の習慣化によって着実な理解を促す。
- ・図書館の書籍の充実を図る。
- ・グローバルな視野を持ち、かつ、多様性のある社会で生き抜く力を身に付けさせる。

- ・短期・長期留学（受入れ・派遣）や海外大学生との交流を促進する。
- ・グローバル化を担当する部署・センターを設け、専門知識を備えた職員を配置する。
- ・国際化（グローバル化）に向け、留学生の受け入れを拡大する方策を検討する。
- ・短期交換制度の在り方を検討する。

（3）学生一人ひとりの学びの充実

学生一人ひとりが、学生生活に真摯に取り組む、自己評価することの重要性を認識し、成長していけるようなサポートを実施する。

- ・ICTを活用し、デジタルコンテンツを充実させる（eラーニングなど）。
- ・学生ポートフォリオを整備して、学生の正課内・外の活動実績を把握し、自己評価・自己成長に役立たせる。
- ・学修のモチベーションを向上させる。

（4）情報公開

教育の質の向上の観点から教育情報の公表は重要であり、学生、保護者、入学希望者、社会に対して説明責任を果たしていく。

- ・学校教育法施行規則による教育研究活動等の状況についての情報及び教育職員免許法施行規則による教員の養成状況についての情報をホームページにおいて公表する。

（5）オンライン等遠隔授業における教育の質の向上

新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の発出及びまん延防止等重点措置の公示などによって、防止対策としてオンライン等遠隔授業の必要性がある場合に、オンライン等遠隔授業において効果的な授業の実施が可能となるように、教員の教育上の配慮すべき対応や学生に対する指示等を徹底する。



2. 教育組織のあり方

(1) 本学の特徴の発信

本学の強みを、学内関係者間で認識を共有し、学外（社会）に対して発信するとともに、情報発信のあり方を検討する。

- ・ 本学の強みを、学内で定義し、言語化する。
- ・ 本学の強みを、学内関係者間で共有する。
- ・ 本学の強みを実質化していく。
- ・ 中長期的かつ計画的な広報活動を実施する。
- ・ 専門教育を重視することとの関連において、インターンシッププログラムへの参加の拡大を図り、参加者を増加させる。
- ・ 専門性を活かした分野への就職を支援する。

(2) 学部・学科の再生

社会が本学に求めているものに応え、持続的な発展を目指し、時代と状況の変化に対応するために、学部・学科の内容構成を見直す。

- ・ 栄養学部フードデザイン学科を改組・改編して、栄養学部「食」に関する新学科を立ち上げる。
- ・ 伝統に頼るだけでなく、新しい魅力を打ち出す学部・学科の存在を目指す。
- ・ 多様性のある学生を集め、学生が学修の成果をあげることができるようにすることで、学部・学科の活性化を図る。
- ・ 栄養学部栄養学科は、学生の安定的な確保に向けて、多様なかつ多数の学生を吸引できるように学科の内容・入学試験の在り方を段階的に改革する。



3. 学生

学生の成長に必要な学修環境を整備し、学生生活を安定させ、社会的・職業的な自立に向けて、総合的・継続的に学生を支援していく。

i 学生のために

(1) 学生の成長を促す学修環境

学修に専念できる環境及び教育研究環境の整備を行う。

- ・ 教室等施設を耐震、防災等の安全に配慮し、適切に管理する。
- ・ 施設のバリアフリー化を順次進める。
- ・ 技術の進歩に即した ICT インフラを整備する。
- ・ 情報セキュリティの強化を図る。
- ・ 図書館やラーニングコモンズ等の利用環境を充実させ、学修意欲の向上や興味、好奇心の需要に応える。
- ・ 学生の通学に配慮したバス運行を実施する。

(2) 安全・施設保全

学生の利用しやすい施設・設備の整備・充実に向け、優先順位をつけながら修繕・更新を行う。

- ・ ファシリティマネジメント計画を策定し、計画、管理、日常業務の PDCA サイクルを実施する。
- ・ 危機管理体制を構築し、危機管理マニュアルを策定し運用する。
- ・ スクールバスの安全運行を推進する。

(3) 学生生活の安定

心身の安全・安心、経済的な不安の軽減など、学生生活の継続に役立つサポートを実施する。

- ・ 担任制度を軸に、学修・学生生活・キャリア面を横断的連携により支援する。
- ・ 保健管理センター、学生生活相談室、教職員の連携により学生に寄り添うサポートを充実する。

- ・奨学金制度の一層の充実を目指す。
- ・学修面、心身の健康面、家庭・経済面等の理由により学生生活の継続が困難な学生に対し、きめ細かい相談を行い、離学者の低減に努める。

(4) キャリアサポート・就職支援

学生が、大学生活を通じて、自身の能力と個性を把握し、卒業後の生き方を考え、適性と希望に合った進路設計と職業選択ができるように支援を行う。

- ・表現力や文章力等の基礎学力強化を図る。
- ・学生のニーズと社会の需要に応えられるキャリア科目を充実する。
- ・学生にあったキャリアを紹介するように努める。
- ・資格取得を目指す学生が、自発的学修を進めるための支援を充実させる。

(5) 正課外活動の活性化

学生が、多様な人と関わりを持ち、正課では得られない様々な能力（企画力、行動力、応用力、積極性、組織性、忍耐、自己肯定感、対人関係、社会性など）を習得するため、自主・集団活動への取組を支援する。

- ・全学生が、何らかの正課外活動に取り組むよう推奨し、周知に努める。
- ・正課外活動に取り組む学生と顧問の教員との一層の連携の強化を図る。
- ・学生が地域や社会に対する貢献となる活動を行えるように支援する。

ii 学生の確保

(1) 学部学生の確保

少子化の進展、グローバル化、生涯学習時代の到来に合わせ、学生募集が大学の活力そのものに影響することを認識し、本学のポジショニングや競争関係（特性）を分析し、学生の安定的確保に取り組む。

- ・オープンキャンパスと学生確保の関係性の一層の強化に向けて、オープンキャンパスの在り方を恒常的に見直していく。
- ・オープンキャンパスや学内イベントへの学生参加を促進する。
- ・学生の適性・能力を見つけることができる大学であることを強調して本学の魅力が伝わる学生募集を行う。
- ・過去のデータを分析し、本学を志望する高校生の特性を把握する。

- ・受験生のニーズを把握する。
- ・グループの甲子園学院中学校・高等学校との接続を見直す。
- ・パンフレット、ホームページ、SNS 等各種媒体を通じて本学の魅力を発信し、募集活動を強化する。
- ・指定校推薦（プレミアム校を含む）等を活用し、学生募集活動を強化する。
- ・高校生科目等履修生制度の導入を検討する。
- ・本学の認知度を上げるため、高校訪問、模擬授業等の機会を創出する。
- ・入学後の学修や学生生活への不安を和らげるため、入学前の情報提供や事前学習を充実させる。
- ・甲子園短期大学など短期大学卒業者の編入学の受入れ（社会人を含む）を促進する。
- ・社会人の大学入学（編入学を含む）を促進する。

（２）大学院への入学の促進。

キャリアアップを求める社会人を大学院に吸引できるように、本学の大学院についての社会人に対する情報発信を強めていく。

- ・大学院に入学する留学生の受入れを促進する。
- ・学べる内容及び受講形態を工夫し学修意欲のある社会人に柔軟に対応していく。
- ・高い専門分野の知識・技術の修得やキャリアアップを目指す社会人が、学びと社会生活とを両立できるよう、受講形態を工夫する。
- ・学び直し、リカレント教育の機会を提供する。



4. 教職員

(1) 人材育成

社会環境の変化、解決すべき課題の多様性に対し、大学として迅速な意思決定をし、実行していくため、すべての教職員の参画と実行を促す組織風土及び人材育成に取り組む。

- ・ 目標を設定することによって、教職員一人ひとりが職務にふさわしい能力及び教職協働の強化を図る仕組みを構築する。
- ・ スムーズな意思決定及び実行に向け、ルールを明確化する。
- ・ FD 及び SD を中・長期的視野で計画し、新入教職員も含め、教職員への研修活動を推進する。

(2) 研究活動

研究施設・備品を充実させ、研究を推進できる環境を整備する。

- ・ 研究活動を活性化するためのマネジメント人材・ノウハウを蓄積する。
- ・ 教育・研究備品の更新計画を定め、整備及び維持管理を行う。
- ・ 学内外の人的交流を推進し、研究活動の基盤となる人材を養成する。



5. 地域連携・卒業生

(1) 産学連携、社会連携

学生・教職員による教育研究成果を、地域・社会・産業界に結び付け、本学の教育研究を活性化させると同時に、社会貢献を果たしていく。

- ・ 継続的に研究成果を出し、地域社会の本学に対する関心を高める。
- ・ 教育研究成果を効果的に広報することで、地域・社会・産業界との連携を推進する。
- ・ 専門職連携教育を通じ、現場で応用可能かつ実践的な教育研究の仕組みを構築する。
- ・ 本学の伝統を支える大きな力である地域との関係をよりよいものにし、大学と地域の両方の発展につなげる。
- ・ 学生・教職員が地域住民の活動へ参画することで、地域の活性化と大学の社会参加を推進する。
- ・ 地域課題解決に向け、行政等の施策へ積極的に関わる。
- ・ 地域包括連携の実質化を図る。
- ・ 地域に愛される大学を目指す。
- ・ 地域住民の学びを支える公開講座を充実させる。

(2) 卒業生組織

大学を支えるパートナーとして、卒業生組織を見直し、卒業生と在学生の交流を推進する仕組みを構築する。

- ・ 卒業後の学生の動向を効果的に把握する手法を検討する。
- ・ 卒業生のニーズを把握する。
- ・ ホームカミングデー実施、情報誌の発行など、卒業生サービスを充実する。
- ・ 卒業生同士の交流や、先輩卒業生から後輩への教育・指導など、卒業生の本学への貢献を引き出す方策を検討する。
- ・ 卒業生の大学に対する財政的援助を促す。

甲子園大学の沿革

- | | | | |
|-------|---|-------|--|
| 1966年 | 宝塚市伊子志武庫山（現・紅葉ガ丘）に土地約70,000㎡を買収、大学学舎建築開始 | 2003年 | 10号館完成 |
| 1967年 | 甲子園大学（栄養学部栄養学科）設置認可
甲子園大学開学 | 2004年 | 経営情報学部を現代経営学部へ改称
医療福祉マネジメント学科を新設 |
| 1968年 | 栄養館完成 | 2005年 | 栄養学科に栄養教諭一種免許認可
医療福祉マネジメント学科に福祉教諭一種免許認可総合教育研究機構設置、キャリアサポートセンター設置、1号館改修 |
| 1969年 | 教養館完成、学生館完成 | 2006年 | 経営情報学科を現代経営学科に改称
人間文化学部を人文学部に改称
比較文化学科を社会文化学科に改称 |
| 1979年 | 体育館完成 | 2007年 | 開学40周年記念式典挙行 |
| 1985年 | 経営情報学部経営情報学科設置認可 | 2008年 | 栄養学部にフードデザイン学科を設置
5号館リニューアル |
| 1986年 | 本館、2号館、3号館、4号館完成
経営情報学部経営情報学科開設 | 2011年 | 現代経営学部、人文学部、大学院現代経営学研究所を募集停止、心理学部現代応用心理学科を設置
学院創立70周年記念 |
| 1990年 | 経営情報学部経営情報学科期間付入学定員増加認可 | 2013年 | 地域連携推進センター設置、学生食堂が「Maple Kitchen」としてリニューアルオープン |
| 1991年 | 学院創立50周年記念式典 | 2015年 | 総合教育研究機構廃止
共通教育推進センター開設
産学連携センター設置
大学院人間文化学研究所を心理学研究科に改称
久米利男学院長逝去 |
| 1992年 | 6号館完成、大学院（栄養学研究科食品栄養学専攻修士課程）設置認可、大学院栄養学研究科食品栄養学専攻修士課程開設 | 2016年 | 久米知子理事長、学院長に就任 |
| 1996年 | 人間文化学部（人間行動学科・比較文化学科）設置認可 | 2017年 | 開学50周年記念行事（年間） |
| 1997年 | 7号館、大学院棟完成、5号館増改築完成
人間文化学部人間行動学科・比較文化学科開設
発達・臨床心理センター開設
新体育館完成（震災による改築）
開学30周年記念式典挙行 | 2018年 | 心理学部 公認心理師カリキュラム設置 |
| 1998年 | 8号館設置（敷島紡績跡地） | 2021年 | 学院創立80周年記念 |
| 2000年 | 大学院（人間文化学研究所人間文化学専攻博士前期・博士後期課程）設置認可 | 2022年 | 国際交流センター設置
8号館跡地に菜園実習場設置 |
| 2001年 | 大学院（人間文化学研究所人間文化学専攻博士前期・博士後期課程）開設
学院創立60周年記念式典
大学院（栄養学研究科食品栄養学専攻博士後期課程・経営情報学研究科経営情報学専攻修士課程）設置認可 | | |
| 2002年 | 大学院（栄養学研究科食品栄養学専攻博士後期課程・経営情報学研究科経営情報学専攻修士課程）開設
人間文化学部人間行動学科を心理学科へ改称 | | |

学校法人 甲子園学院 <https://www.koshiengakuin.jp>

〒663-8107 兵庫県西宮市瓦林町4番25号 TEL 0798-67-2100(代)

甲子園短期大学 甲子園学院中学校・高等学校 甲子園学院小学校 甲子園学院幼稚園

甲子園大学 <https://www.koshien.ac.jp>

〒665-0006 兵庫県宝塚市紅葉ガ丘10番1号 TEL 0797-87-5111(代)

栄養学部 栄養学科 フードデザイン学科 大学院 栄養学研究科

食創造学科 (2023年4月開設) 心理学研究科

心理学部 現代応用心理学科